

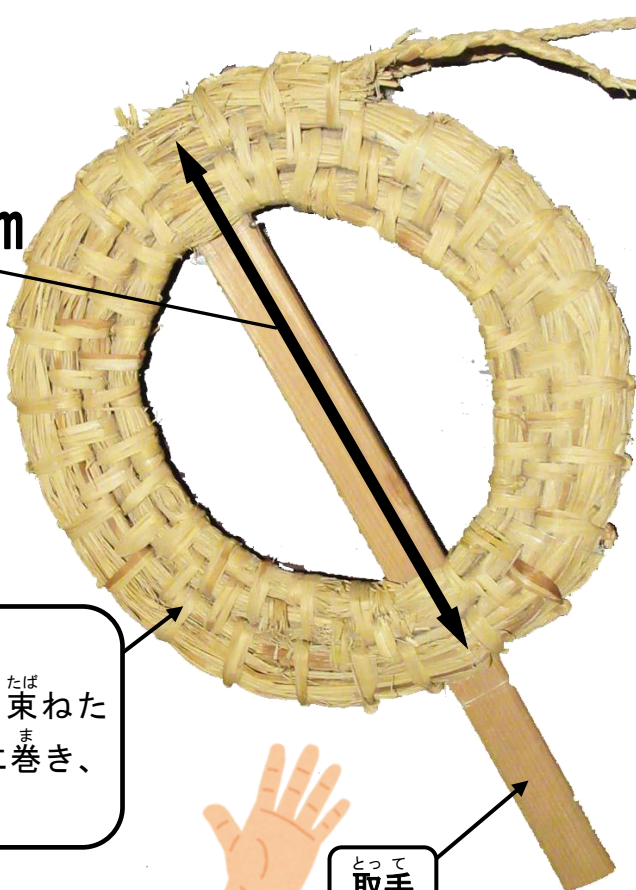
けんぱくものしりシート

ワラダ



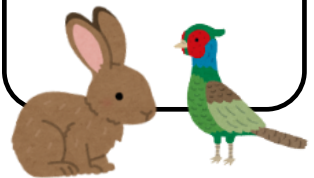
東北地方で狩りをしながら暮らしていた人々のことをマタギと呼んでいました。マタギは独自のルールや言葉を持ち、動物の習性をたくみに利用して集団で狩りをしていました。こちらの「ワラダ」はマタギの狩りの道具のひとつで、ノウサギなどの動物をつかまえるためのものです。

直径約30 cm



つかまえる動物

ノウサギ・キジ・ヤマドリなど



ワラ

大人の親指ぐらいに束ねたワラをドーナツ状に巻き、編んだもの。

とって
取手

ワラをドーナツ状に編み、投げやすいように木の取手をつけている。
(※中には取手のないものもある)

【クイズ】ワラダはどのようにして使い、動物をつかまえたのでしょうか？

- ① たたく ② 投げる ③ 動物の足にひっかけるワナにする

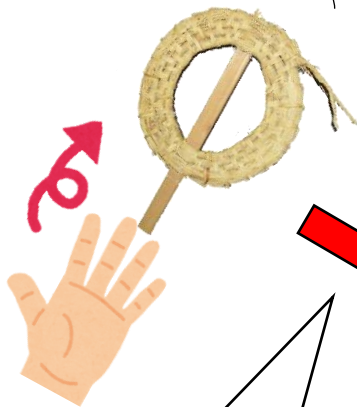
↓答えはウラ面へ！

【答え】は…「②投げる」です！

ワラダの使い方（例：ノウサギをとる時）

ノウサギの上空めがけて水平に投げると、タカが飛んでくるような音を出す。その音と影におびえたノウサギが、雪穴にもぐりこんだところをつかまえる。

投げる



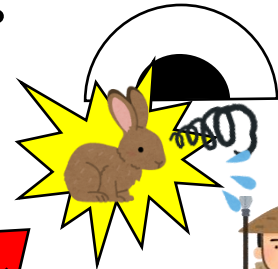
「ヒュー」という音がする。

ノウサギがおどろく

タカにおそわれる！
にげなきゃ！



雪穴ににげる



つかまえた！



※ヤマドリやキジはおどろいて地上に落ちるので、そこをつかまえる。



一見、素朴で古めかしい方法の様に思われますが、動物の習性をたくみに利用した狩りの方法なのです。下手な鉄砲よりもいいと言う人もいて、ワラダ使いの名人になるとほとんど失敗しなかったそうです。

マタギは動物という相手をよく知り観察して、とてもかしこい作戦で狩りをしていたのですね。

引用・参考 太田祖電・高橋喜平 1978年 『マタギ狩猟用具』

遠野市立博物館 1988年 『山と暮らし ヤマダチ —失われゆく狩りの習俗—』 他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPIにてバックナンバー公開中！

けんぱくものしりシート

『ワラダ』

2024年10月発行 民俗—No.29

■参考文献

- ・太田祖電・高橋喜平 1978年 『マタギ狩猟用具』
- ・遠野市立博物館 1988年 『山と暮らし ヤマダチ —失われゆく狩りの習俗—』
- ・岩手県立博物館 1981年 『ひとつの資料から 民俗-2 ワラダ』